

選考試験 専門記述式問題（文化財専門職員（民俗））

次の各問について、解答せよ。

問題 1

次の用語等について説明しなさい。

- ① 柳田國男の『蝸牛考』
- ② 経世済民の学
- ③ アチック・ミュージアム
- ④ ICOM規約

問題 2

柳田國男の民俗資料の三部分類について説明するとともに、「旅人の学」「寄寓者の学」「同郷人の学」との関連について述べなさい。

問題 3

博物館法における「博物館」の基本的な定義を説明するとともに、2011年に文部科学省から告示された「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の中で示された主な事項を説明しなさい。

問題 4

2020年12月、国の文化審議会企画調査会は、地域の祭りや郷土料理などを継承するための制度を新設すべきとの報告書を了承し、文化財保護法の改正案が国会に提出され、2021年4月16日に参議院本会議において全会一致で可決成立した。そこで、この改正内容と意義を説明しなさい。

問題 5

現在、四国4県では四国遍路の世界遺産登録に向けての調査研究などを行っている。

あなたが考える四国遍路の文化的価値について述べるとともに、その文化的価値を明らかにするための民俗分野からのアプローチや調査研究について述べなさい。

問題 6

国は2020年3月、ユネスコ事務局に対しユネスコ無形文化遺産への「風流踊」の提案書を提出した。そこには全国37件の民俗芸能が記載されており、うち2件は香川県の「綾子踊」と「滝宮の念仏踊」である。そこで、この2件のどちらかを選んで、その特徴を説明しなさい。

問題 7

東日本大震災以降、四国においても南海トラフ地震に備えたさまざまな施策が求められている。民俗分野を所管する文化財専門職員として、今後どのような備えをすべきか、有形民俗文化財、無形民俗文化財それぞれについて具体的な施策を提案するとともに、津波や高潮により水損した民俗資料の取扱いで注意すべきことを説明しなさい。

問題 8

新たな感染症の社会的影響が拡大する中で、「新しい生活様式」の定着が求められ、民俗行事や暮らしにもさまざまな影響が出てきている。変化しつつある民俗の具体例を挙げるとともに、民俗分野を所管する文化財専門職員として今後注視すべきことや、民俗行事・民俗芸能の伝承に向けて取り組むべき施策を提案しなさい。